

一步を踏み出そう!!海外への挑戦!!～ドイツ国際平和村～

京都産業大学外国語学部ドイツ語学科 川村 幸輝

今回、私はこの講演会で「一步を踏み出すことの大切さ、そしてそれによって広がる未来」について伝えたいと思いながら話をしました。

私は、2013年の春学期から1年間大学を休学して、ドイツにあるドイツ国際平和村というNGO団体の活動に7ヶ月間ボランティアとして参加をしてきました。ドイツ国際平和村という団体は紛争地域や危機に瀕した地域の子どもたちを助けるために活動している団体です。子どもたちは様々な国々からドイツへと治療を受ける為にやってきます。代表的な国としては、アフガニスタン、タジキスタン、グルジア、アンゴラなどといった国となります。活動としては主に3つの活動が挙げられ、①子どもたちの治療、②現地での活動、③平和のための教育を行っています。

子どもたちの治療では、ドイツへ連れてくる子どもに対して4つの条件が必要となります。それは、

- 1.母国ではその子どもに必要な治療ができないこと
- 2.ヨーロッパでの治療で治る見込みがあること
- 3.治療後、子どもたちの帰国が家族や国によって保証されていること
- 4.家庭が困窮していることです。

これら4つの条件にあてはまる子どもたちのみをドイツへと連れて行き、治療することができるのです。

現地での活動とは、主に紛争地域や危機に瀕した地域での医療ケアの向上を行っています。

平和のための教育とは、ドイツ国際平和村の活動や子どもたちの母国について知ってもらうことで、平和への意識を高めることを目指しています。

時間の関係上ここではドイツ国際平和村について詳しく説明することができず、大変申し訳ないのですが、簡単に説明をさせていただきました。私が活動していたドイツ国際平和村という団体はこのような団体です。

私がこの団体の活動に参加しようと思った理由には様々な思いがありました。子どもが好きだったから、ボランティアに興味があったからなど、他にもここでは一言で表現できないような様々な思いがありました。しかし、その中で私が一步を踏み出そうと思った最

初の思いとして、「自分が学んだドイツ語で何か人の為になるようなことをしたい」というものがありました。この気持ちがあったからこそ私は一歩を踏み出せたのだと思います。この気持ちは一歩を踏み出す前よりも増して、今もなお私の心のなかに存在しています。私はこの体験から、本当に数多くのもを知り、得ました。かけがえのない仲間や友人、子どもたちの笑顔の素晴らしさ、世界の広さなど数え切れません。活動に参加する前に比べ、今の自分は一回り大きくなれたのではないかと感じています。

皆さんの中で、休学に対して抵抗や悪いイメージを持っている人もいるかもしれません。しかし、私はそうは思いません。休学して何かをするという方法は自己責任であり、全て自分で考えてやらなければならないという面もありますが、自分がやりたいこと、やってみたいことを形にするチャンスでもあります。留学するのもよし、世界一周を目指してみるのもよし、もし何かしてみたいことがあるならば休学をして何かを試みるというのも一つの手かもしれません。一度しかない人生です。一歩を踏み出すことで得ることができるものは必ず何かあると私は思っています。

以上